

令和二年度卒業式式辞

厳しかった冬の寒さも少しづつ和らぎ、日本各地から春の到来を告げる便りが届き始めています。本日、この佳き日に、栄えある卒業証書を授与された、本校、第七三期生三一七名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの門出を、心よりお祝いたします。

皆さんが、この卒業の日を迎えることができたのは、皆さん自身の努力の成果であることは言うまでもありません。しかし、その努力を支え続けてくれた多くの存在があったことを深く心に刻み、今日はその人たちに改めて感謝の気持ちを言葉で伝えてほしいと思います。

保護者の皆様、本日は新型コロナウイルス感染症への

感染予防の観点から、残念ながら卒業式へのご列席は叶いませんでしたが、高校卒業というこの節目に当たり、立派に成長されたお子様の姿をご覧になるにつけ、感激も一入のことと存じます。今日まで深い愛情を注いでこられた皆様に敬意を表し、心からお祝いとお喜びを申し上げます。思います。

さて、卒業生の皆さんは、これからそれぞれの希望に応じた進路へと新たな歩みを始めることとなります。そのはなむけとして、今年一年間、私から皆さんに繰り返して伝えたい一節を、もう一度贈りたいと思います。

君子固(もと)より窮す。小人(や)ようじん(窮すれば)斯(こ)こに濫(みだ)る。衛霊公第十五」意味は、君子も困窮することはある。しかし、小人は困窮すれば行いが乱れてしまう。そこが君子と小人の違いだ。」というものです。もう、覚えていただけたでしょうか。

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症への対策のため六月までの約三カ月間、学校は臨時休校となりました。勉強が遅れることへの不安や部活動に集中できないもどかしさ、友達と会えない寂しさなど、これまでに体験したことのない状況が長く続き、大きな戸惑いを感じていたことと思います。学校が再開した後、行事や部活動など様々な活動が縮小あるいは中止となるなど、例年なら、皆さんが活躍できたはずの場所が少なくなりました。この間、皆さんが経験したものは、皆さんのみならず、保護者の方々や教職員の誰も経験したことのない、本校開校以来未曾有の出来事でした。今までの当たり前が、実は当たり前ではなかったということ、世界中の人々が思い知らされることになりました。

更に、令和3年度の大学の入学者選抜から、大学入試センター試験に代わり、大学入学共通テストが導入されることとなり、皆さんは大学への進学に当たっても、大きな変革期に遭遇することとなりました。

この新たな入試制度が実際に導入されるまでも、紆余曲折があり、皆さんが二年生の終わり頃、共通テストでの実施が謳われていたはずの、英語検定試験の活用や国語、数学への記述式問題の導入が見送られるなど、皆さんにとっては、例年、受験生が経験する、受験そのものへの不安に加え、大学入試制度自体が固まらないことから来る気持ちの揺れにも耐えながらのチャレンジであったと思います。このように、先輩方が経験したこと以上の出来事に耐えながら、それでも皆さんは、その時々のできることを見極め、それぞれの場所で存分に力を発揮し、成果をあげてく

れました。これは、先の論語の言葉のとおり、どんな事態に見舞われても決して心を乱すことなく、自らの言動をコントロールし、前向きに対処できる力強さを、皆さんが高校三年間を通して身につけてくれたことの証（あかし）であり、皆さんには、今、誇らしい気持ちとともに大きく胸を張ってほしいと思います。

今、世界では、人工知能、ビッグデータ、Internet of things、ロボティクス等の高度な先端技術が発達し、既に Society 5.0 と言われる時代が到来しつつあります。産業構造や社会システムは非連続的とも言えるほどの急激なスピードで変化しており、この予測困難な社会において、人生一〇〇年とも言われる時代を生き抜くために、皆さんに求められる能力は、今後、刻々と変わり続けていくものと考えられます。今後、多くの仕事が自動化される一方で、新たな業種や業態が現れることも予測されており、十年度、二十年度、皆さんは、今は存在すらしていない職業に就いているかもしれません。

数年前、静岡県を中心に「やさいバス」という新たな試みが始まりました。これは、安全で新鮮な野菜を無駄なく購入したい消費者と、新たな販路を開拓し食品ロスを減らしたい生産者とを Internet の技術を使ってできるだけ多く結び付け、一定の地域の中で必要な野菜を必要を量だけ流通させるための、新たなネットワークを構築するというものだそうです。消費者と生産者のニーズを上手くとらえ、多くの関連企業の協力を取り付けながら、人々の思いを形にすることで、新たな業態を可能にした優れた取組みの一つだと思えます。

人々がそれぞれの思いを抱いているだけでは、そこに何らかのニーズはあっても、新たな取組みとしての成功は望めません。皆さんが高校を卒業した後、様々な局面で、多くの人々が納得できる結論を得るために、難しい判断を求められることがあるでしょう。唯一の正解が見つかりにくい中、寧ろ正解が一つではないような局面を打開するために、皆さん一人ひとりに求められるのは、「やさいバス」の考案者のように、必要な情報を集め、状況を分析し、課題を見出して、その課題の解決のために役立つ情報を取捨選択し、熟慮したうえで、責任を持った判断をくだすということなのです。

こうした要請に応えるため、皆さんには、日頃から、特定の分野に関する知識や技能だけでなく、多くの分野に関する理解や、新たな知識を学び、それらを使いこなして次へと挑戦しようとする旺盛な意欲を持ち続けてほしいと思います。そうして、これから進みゆく進路先で、自らの価値を高めるとともに、相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り拓いていける、社会の立派な創り手となってください。

結びになります。皆さん、健康にはくれぐれも留意ください。先程皆さんが斉唱してくれた本校の校歌の中に「起て一千の鳳雛（ほうすう）よ」という一節がありました。第七三期生三十七名の鳳雛たち、皆さんが、来るべき日に、天高く翔る鳳へと成長してくれることを祈念して、卒業式の式辞と致します。

令和三年三月一日

大阪府立鳳高等学校

校長 田中肇